



アルブミン	蛋白は大別するとアルブミンとグロブリンに分けられます。アルブミンは栄養不足で下がり、グロブリンは炎症で上がるので、両方おきる肝硬変ではこの比であるA/G比(アルブミン/グロブリン比)は、下がります。一般的にはA/G比の低値が問題になります。
GOT・GPT γ-GTP	肝臓に多量に含まれ、肝臓、心臓、骨格筋等に障害が起こると値が上昇します。(ガンマージーティーピー)おもにアルコール性肝臓障害の状況を調べます。
ALP	(アルカリフォスファターゼ)おもに肝臓、胆管、骨、小腸の状況を調べます。
LDH	各種臓器に含まれていて、肝・心筋・血液の障害時に上昇します。
総ビリルビン	総ビリルビンが増加すると皮膚は黄色になり、これを黄疸とよんでいます。

## 8. 脂質検査

総コレステロール	血液中に含まれるコレステロールの量のこと。多いと心筋梗塞・脳梗塞・動脈瘤などの原因となる動脈硬化を引き起こします。また、細胞膜やホルモン等の原料となるので、低値でも問題です。
HDLコレステロール	またの名を善玉コレステロール。血管壁についてのコレステロールをはがしてまわります。最近、高すぎる場合でも問題があることがわかってきました。
中性脂肪	皮下脂肪の主成分。食事やお酒のカロリーの量に比例して増加し、これが多いと肥満の原因となります。
アミラーゼ	アミラーゼはすい臓、唾液腺に多く含まれる消化酵素で、これらの臓器の破壊や炎症で血液中に出てきます。すい臓と唾液腺の病気で高値になります。

## 9. 腎機能検査

クレアチニン	体の老廃物一つで腎臓の機能が悪いと尿で捨てられずに上昇します。
尿酸	高いと痛風になるので有名ですが、血管が傷み動脈硬化もおこします。

## 10. 糖代謝

血糖	糖尿病かどうかを診断するための第一歩の検査。できるだけ空腹時に測ります。(空腹時血糖)
ヘモグロビンA1c	過去2ヶ月間位の平均血糖値を表し、糖尿病の診断、治療の指標として重要な検査です。

## 11. 呼吸器・循環器検査

心電図検査	心臓の働きを調べる検査。心筋の異常(心筋梗塞、狭心症、心筋炎等)や不整脈などわかります。
眼底検査	全身でただ一箇所だけ動脈の状態を直接見ることができる眼底の写真で血管の状態を調べます。
胸部X線検査	肺や心臓の状態を知ることができます。呼吸器系では肺結核や肺がん等の早期発見、循環器系では心臓肥大や大動脈硬化など発見できます。
肺機能検査	肺活量は空気をいっぱい吸入していっぱいはいたときの量で年齢・身長での予測正常値と比較して%肺活量で表します。1秒率は最初の1秒に全体の何%を呼出するかで肺の弾力性や気道のつまりの程度を示します。弾力性がよく、つまりがないと%は大きくなります。

## 12. 腹部・消化器検査

胃部X線検査	バリウムを飲んで胃や十二指腸の内側につけ、発泡剤でふくらませ撮影し、胃炎や潰瘍、ポリープやがん等の細かい病変を見つけます。
便潜血反応検査	陽性だと口から肛門までの消化管(食道、胃、小腸、大腸)等からの出血を意味します。大腸がん検査のスクリーニング検査として用いられます。
腹部超音波検査	高い周波数の音波を体内に発信し腹部臓器を調べます。
胃部内視鏡検査	口や鼻からファバースコープを挿入して食道、胃、十二指腸の病気を調べます。

## 13. 子宮がん検診

子宮頸部の細胞診で子宮頸がんのチェックをします。

14. 乳がん検診 医師による視触診とマンモグラフィで乳房をレントゲン撮影して、乳房のしこりの影などを見ます。

## 15. 肝炎ウイルス検査

HBs抗原	B型肝炎ウイルスの感染の有無を調べます。陽性なら現在B型肝炎ウイルスに感染している可能性があります。
HCV抗原	HCV抗体陽性の方は、次にHCV抗原検査を行い、体内にHCV抗原があるかを確認します。HCV抗原陽性の場合、C型肝炎ウイルスに感染していることがわかります。
HCV核酸増幅検査	HCV抗原検査が陰性の場合、さらにこの検査でHCV-RNAというC型肝炎ウイルスの存在を調べます。この検査が陽性であれば、現在C型肝炎ウイルスに感染していることがわかります。